

榊原病院 Monthly

Vol.15
2016 June

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital
榊原病院
発行者 榊原病院企画課

院長

村上 優(むらかみ まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒

86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修、

2005年花巻病院臨床研究部長(併任)、2006年琉球病院長を経て、2014年榊原病院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。

NGOベシャワール会の会長として活躍。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 176床

- ・ 精神科病棟 158床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 認知症ユニット
- ・ アルコール・薬物依存症ユニット

病院理念

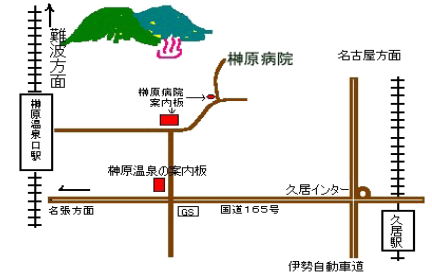
この病院で最も大切なことは治療を受ける人である

〈病棟リオープン〉

副院長 村田 昌彦

このたび、休棟しておりました南2病棟を平成28年5月16日(月)にリオープンいたしました。この病棟では、治療抵抗性精神疾患の患者さまに対しクロザピンなどの処方を行いながら多職種による治療を展開し、社会復帰を推進してまいります。これまでも当院ではクロザピンを用いることで超長期入院をしていた患者さまの社会復帰を可能にできましたが、新たに病棟をリオープンすることで病棟機能を明確にすることができ、退院に向けた働きかけが促進できるものと期待できます。

この病棟では、当院に入院中の患者さまだけがクロザピンの恩恵を受けるのではなく、他の病院に入院していらっしゃる患者さまにも門戸を広げたいと思っています。当院が地理的に遠い場合、クロザピンの開始から安定期まで当院に入院していただき(クロザピンの内服開始は入院が条件となります)、副作用の確認や状態が安定された後に地元にお戻りいただくことも可能です。かかりつけの病院さんとのネットワークを大事にしながら、安定した社会復帰を目指す、これもリオープンした病棟の果たす役割です。関心をお持ちの方は、当院の地域医療連携室までご連絡ください。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。
自動車/ 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分
マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)

難治性精神疾患

地域連携体制整備事業

(厚生労働省の)

ホームページから)

難治性精神疾患地域連携体制整備事業(モデル事業) 28年度予算 4,800万円

難治性精神疾患を有する患者が、どこに入院しても、クロザピンやmECT等の専門的治療を受けることのできる地域連携体制を整備するために、地域の実情に応じた複数の地域連携モデルを明らかにする。

現状と課題
精神疾患に入院している難治性精神疾患を有する患者は、退院が困難となり、入院が長期化しやすいが、クロザピンやmECT等の専門的治療により地域生活へ移行する例も少なくないといわれている。これらの治療を実施するためには、精神科病院と血液内科・麻酔科等を有する医療機関とのネットワークの構築等により、地域連携体制を整備する必要がある。

事業概要
都道府県とコア医療機関は、協働して、
①精神科病院と血液内科、麻酔科等を有する医療機関との地域の実情に応じたネットワークを構築
②難治性精神疾患を有する患者
③ネットワークに所属する医療機関による連携会議を開催し、活動状況のモニタリング、連携調整、連携記録を行い、専門的治療を入院、外来で円滑に実施
④地域連携体制を整備し、専門的治療を入院、外来で円滑に実施

期待される成果
①難治性精神疾患地域連携体制の「見える化」とその構築、②専門的治療を提供できる医療機関の充実
③長期入院精神障害者の地域移行の進展、④精神科病棟における平均入院日数の短縮化

沖縄県の取り組み ~琉球病院を拠点とした沖縄連携モデル~

CPMS登録上の課題である精神科病院と血液内科と精神科を持つ総合病院との連携を、琉球病院を介することで実現。連携開始に、関係機関に加入CPMS登録医療機関も参加することで、CPMS登録医療機関と連携開始とが同時に実現。患者が治療を受ける際に、クロザピンの導入、副作用管理が円滑になる。○入院導入を琉球病院で行い、最も副作用が出やすい時期に安全に経過させることで、クロザピン使用の不安を軽減。

【沖縄県の基本情報(平成25年6月現在)】
人口 1,414,120 人
面積 2,281 km²
管轄の数 41 市町村
精神科病院の数 18 病院
精神科病床数 5,422 床
入院後3ヶ月時点の退院率 69.2 %
入院後1年時点の退院率 86.8 %
平均入院日数 224.3 日

【沖縄県の役割】
○ 連携会議の開催、各医療機関参加機関の調整
【琉球病院(コア医療機関)の役割】
○ 入院導入、連携調整を担当し、必要な連携連絡の仲介、新薬の導入に向けた研修開催、新薬導入を受け付け機関の連携調整

【連携体制】
○ コア医療機関 ○ CPMS登録医療機関 ○ CPMS登録医療機関
○ 入院導入は琉球病院
○ CPMS登録医療機関
○ CPMS登録医療機関
○ CPMS登録医療機関
○ CPMS登録医療機関

【地域連携の効果】
○ 沖縄県で発生している難治性精神疾患は、他県、他都道府県の患者の入院先である。琉球病院に入院する患者の数は増加傾向にあり、地域連携体制を整備することで、患者の入院先を減少させることができる。○ 入院導入の割合は、2010年(10%)から2015年(25%)へと増加している。○ CPMS登録医療機関の数は、2010年(11)から2015年(16)へと増加している。

トピックス

行事・出来ごと

教育・研修

- 平成28年4月17日~4月24日、災害派遣精神医療チームを熊本に派遣しました。
- 平成28年5月9日、災害派遣精神医療チームの活動報告会を行いました。
- 平成28年5月16日、南2病棟リオープンしました。
- アルコール家族教室(5/26、6/9、23、7/7、21、8/25、9/8、29、全8回13:30~14:50)
- 平成28年度「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)指導者養成研修」開催予定
・平成28年7月11日(月)~14日(木)
・平成28年10月24日(月)~27日(木)



榊原病院ホームページ QRコード

地域医療連携室だより

〈図書ルームからのお知らせ〉

患者様・ご家族様に、図書を通じて病気や医療・福祉の情報を広く知っていただき、回復への志向・治療に取りむむ意欲を高め、治療に参加し、治療者とのより良いコミュニケーションにつながればと考えています。

入院患者様は自由散歩の時間を利用して、ふらっと寄ってパラパラと見て帰る方、しっかりと読み込んで帰る方など様々です。 開設時間：第2月曜日 11時～12時



空床状況
6月1日現在

精神科病棟
45床

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできずに使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成28年5月までに全症例は26例となりました。6月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われております。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。平成27年4月から当院のアルコール・薬物依存症治療のプログラムをリニューアルしました。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われております。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、月・水・金の週3日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。

朝から参加するのは大変だという声もありますが、朝から起きて活動する場所として活用して頂きたいと思っております。昼食づくり等の新しいプログラムも行います。参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。

主な内容：症状自己管理教室、スポーツ、クッキング教室、カラオケ、など
デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。



榊原は自然がいっぱい！
お話ししながら歩きませんか？

大人気のクッキング教室で、
カレーライスを作りました。



近況だより

DPAT活動報告について

榊原病院は、平成28年熊本地震の発生に伴い、三重県の要請で被災地支援に向け、災害派遣精神医療チーム（三重DPAT）を4月17日（日）～4月24日（日）まで派遣し、その活動報告を5月9日（月）に行い、約50名の職員が聞くことができました。

派遣された職員6名を代表して壁屋康洋心理療法室長から詳細な報告があり、更に派遣された職員からも報告がありました。また、厚生労働省委託事業DPAT事務局（日本精神科病院協会）に4月15日（金）～4月28日（木）まで派遣された奥浜伸一副看護師長からの報告もあり、多くの職員が情報を共有することができました。

2016年熊本震災 榊原病院DPAT報告						
村上優Dr 壁屋康洋CP 西尾裕成師長 中村佳史副師長 福澤咲子PSW 伊藤静孝専門職						
4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23
移動	熊本日赤	阿蘇やまなみ病院	阿蘇市保健センター	移動		
	菊池病院	阿蘇やまなみ病院	転院	南阿蘇高森		
	精神保健福祉センター泊	阿蘇泊	延岡泊	阿蘇泊	福岡泊	帰宅